

校長室からこんにちは!

No. 23

10月25日

発行者 中田 禎二

幼稚園は先生

「先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。」「健康な生活のリズムを身に付ける。」「自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。」「自分で考え自分で行動する。」「自分でできることは自分です。」「友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感しあう。」「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」「生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」「人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。」「親しみをもって日常のあいさつをする。」「生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。」「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。」

これは、幼稚園版学習指導要領である「幼稚園教育要領」に示されている指導内容の抜粋です。私が敢えて紹介したのは、これらは本校の児童・生徒にも指導すべき大切な内容でもあるからです。ということは、十分にできていない部分もあるということです。

もちろん、幼児に対する達成目標のレベルは違います。しかし、挨拶ひとつをとってみても、「親しみをもって」できているのでしょうか。「人の話を注意して」聞いているのでしょうか。教師は美しいものに触れさせているのでしょうか。

我々義務教育を担う教師にとって、就学前教育は日々の実践を振り返るための大切なお手本だと考えます。私はこれまで何度か保育所や幼稚園に行き、乳児から年長児までの様子を見たことがあります。先生方の子どもの実態を把握した上での細かな指導、そして規律ある行動に感動したものです。ですから、これらを十分に踏まえることが小学部・中学部の教育効果を高めることになると思います。

幼稚園教育要領には幼稚園教育の基本として、「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり…」と示されています。したがって幼稚園教育要領をそばに置いて実践を問うていくこと、評価の指標にしていくことも重要な側面であると考えます。

中学生であっても不十分なことはあります。私もできていないことがあります。

教育は子弟同行、真摯な取り組みが必要です。ですから、学びの忘れ物は子どもだけでなく教師でも幼稚園に取りに行くことが大切ですし、そこに新たな発見があるかもしれません。

「先生さようなら 皆さんさようなら」で一日を終える学校でありたいものです。

校長写真館



「収穫の秋」の授業参観日、子どもたちの様子に「学びの実り」を感じていただけたでしょうか。参観日は教師にとってのテスト日でもあります。

ちょっとお耳を...

下の娘は幼稚園に3年間通った。それ迄は毎日通園する上の娘の送り迎えや参観に母親と一緒にいて行き、幼稚園にはすっかり馴染んでいたように見えた。しかし、いざ自分が入園した途端、毎朝母親との「別れ」から一日が始まった。要は、母親と離れたくないから大号泣なのだ。

そして最後は先生に抱きかかえられて教室へ。「最初にこんなふうに泣く子は、慣れると活動的になりますよ」と先生の一言。

その後、活動的とまではいわないまでも随分変身し、成人した今では私の天敵になっている。